



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

工高祭
応援号1

ポスターは伊東君の作品 自分の手をモデルに

第50回工高祭が開催するまで、残り2日となった。開幕が近づくと共にクラス企画やクラスステージ、科展示なども完成に近づいてきているはずだ。新聞局では準備から閉会式の様子まで取材して、「工高祭応援号」として工高タイムスを発行だ。

工高祭ポスターの原画が6月11日に発表され、伊東佑騎君(化1)の作品が選ばれた。原画はタブレットを使い、構成も含めて約1時間で製作した。青春の青を空で、春を桜で表現した。手のモデルは製作者の伊東君のもの。

た。応募は1点のみだった。伊東君は「他にも応募している人がいて、その中から選ばれた方が良かった」と話した。「中学3年生のとき学校の祭のシンボルマークに応募していたので、高校でも応募しようと思った。ポスターは、



原画を描いた伊東佑騎君(化1)

大エ
巨オブジェ

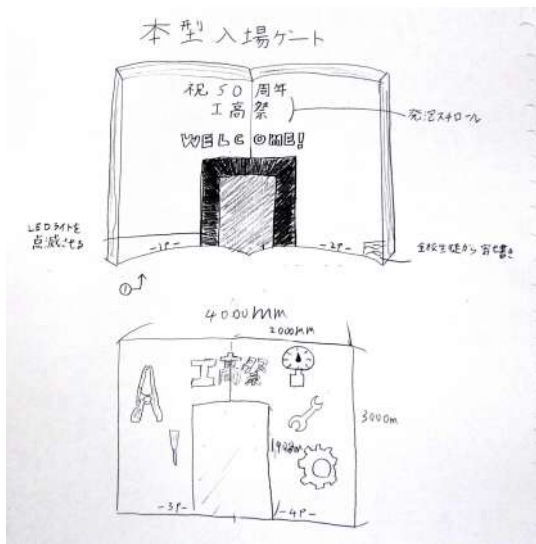
本型の入場ゲート 紙の質感を出す

工高祭の巨大オブジェの製作が6月23日から始まった。

作っているのは本型の入場ゲートで、1年生36人、2年生2人、3年生2人の計40人で製作している。

巨大オブジェをデザインした澤田宙陽君(電2)は「メインは大きい段ボールを使って横2m、縦3mの大きさにするように調整し、木工用ボンドを使って紙を貼り付けている。ゲート部分は過剰

木材を利用して、頑丈なつくりを目指す。デザインは今年のキャッチフレーズ『A new page of youth』に沿うように本型の巨大オブジェを作成した。また、オブジェの提案を製作チームで出して投票したときに自分の提案が採用された。リアルな本を目指すために紙の質感を出せるよう努力している。これまでにないような巨大オブジェを目指し、迫力が伝わるように製作したい」と話した。



本型の入場ゲートのデザイン画



デザインした澤田宙陽君(電2)



「まちなかキャンパス2025」に参加した。工業化学科は硝酸銀水溶液による銀鏡反応で鏡をつくった。来てくれたお客さんが「すごい」と言ってくれたり、喜んでくれていたりして良かった。初めて参加したが、子どもたちもうれしそうで楽しかった▼工高祭の準備がスタートした。今回私は3年間でやったことがないことに二つ挑戦する▼まず一つ目は科展示だ。3年連続で科展示をしているが、初めてリーダーに任命された。役割は担当の先生との打ち合わせや他のメンバーをまとめることだ。今回、工業化学では「プラ板」「アイスクリーム」「ポップコーン」「スライム」「カルメ焼き」「空気砲」の体験と「宙に浮く水道」を展示する。最初の集まりのときにどれを担当するのかなかなか決まらず困った。同級生から案を出してもらえてうれしかった▼二つ目はクラスステージだ。ステージ担当の同級生から声を掛けられ出場することになった。最初はオタ芸をする予定だったが様々な問題がおき、ダンスを踊ることになった。他のメンバーと口論が起きたり、なかなか曲が決まらなかったりしたが頑張って練習している▼だんだんと工高祭が近づいてきている。今年は今まで経験したことがないことが多く大変だが、最後なので過去一番の得意になるように頑張りたい。まちなかキャンパスに来てくれた人も工高祭に来てくれるとうれしい。(化3佐々木)